

身近な生活について討論しよう

めあて 討論の仕方について知り、学習課題を決めよう

「フリートーク」と「ディベート」のちがいは？

述べ方	形式
<ul style="list-style-type: none"> 意見や感想、疑問などを自由に述べる 	<p>自由</p> <p>一人一人</p>
<p>主張</p> <ul style="list-style-type: none"> 理由や根拠 経験から 資料を準備して 	<p>「賛成側」「反対側」二つの立場に分かれて</p> <p>ルールにそって</p> <p>立論 反論 結論</p>

話し合いの技

話し合いの型

学習課題

ディベートにチャレンジ！
話し合い名人になろう

- ディベートをやってみよう
- 話し合い方を知りたい
- 話し合いが上手になりたい

主張とは 自分の意見を言うこと
立論とは 議論の筋道を組み立てること

1 / 12 時間目 指導略案 ワークシート 資料 「ディベートについて知ろう」

活動のねらい

話し合いの仕方の違いから、学習課題を決定することができるようにする。

1 フリートークを行う。

「学校昼食は、給食と弁当のどちらがいいか」というテーマで自由に考えたことを発言させる。

* 児童には、自分がどちらの立場かを自由に意見交流させるようにする。

* ビデオがあれば、事前にビデオに記録し、自分たちの話し合いの様子を振り返らせると、モデルビデオとの比較がしやすい。

2 同じテーマでのディベートのビデオを見て、話し合いの仕方について、同じ点・違う点について話し合う。

フリートークとディベートの話し合いの様子を比べさせ、気付いたことを話し合いながらディベートの特性についてまとめる。

- 二つの立場に分かれて
- 資料を準備して
- ルールにそって順序よく
- 理由や根拠をはっきりさせて
- 資料を参考にし、ディベートの大体について確認する。

「ディベートをしてみたい」「ディベートができるようになりたい」という興味・関心を喚起する。

* ビデオがない場合は、資料を使ってディベートの大体をつかませる。実践の資料を参考に、実態に合わせて進め方や役割の人数をあらかじめ決めておくことよい。

3 学習課題を決める。

計画的な話し合いの中での「言い方」にも注目させ、ディベートという「話し合いの型」を学ばせるとともに「話し合いの技」を使うことよさに気付かせる。学習課題を何にするか、全体で話し合い、決定させる。

《学習課題》 ディベートにチャレンジ！話し合い名人になろう

評価 話し合いの仕方の違いを見付け、学習課題を決めるために、積極的に話し合っている。

4

本時の学習を振り返り、次時の学習について見通しをもつ。
次時は、学習課題を基に学習計画を立てることを知らせる。

身近な生活について討論しよう

5年

月 日 () () の学習を始めてから () () 時間

学習のめあて

討論の仕方について知り、学習課題を決めよう

「フリートーク」と「ディベート」を比べ、気づいたことを書こう。

述ベ方	形 式
	フリートーク ・一人一人
	ディベート

ディベートは話し合いの形式の一つです。
討論(とうろん)には、ディベートの他にもパネルディスカッションやパネル
ディベートなどもあります。



ディベートという討論(とうろん)の仕方を知って、どんな学習をしたいと思いましたが。

Empty dotted-line box for writing notes.

みんなで決めた学習課題を書こう！

Empty rounded rectangular box for writing notes.

ふり返り

よくできた できた もう少し

Empty box for writing a reflection.

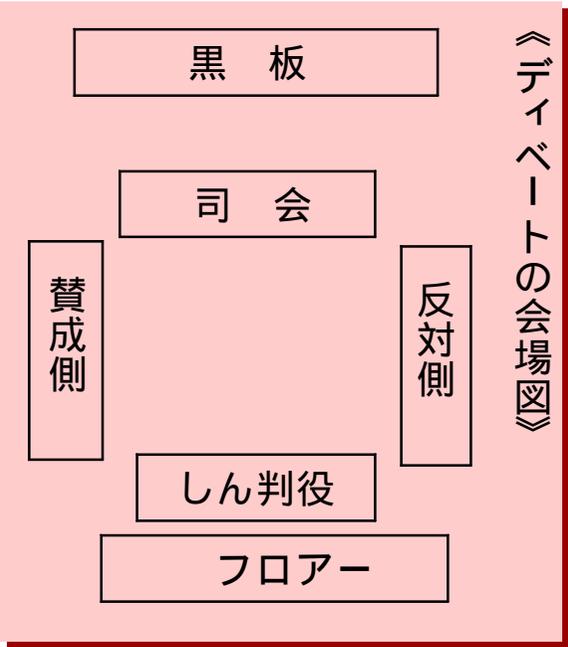
学習課題を決めるために進んで話し合いに参加することができた。

ディベートについて知ろう

ディベートとは

一つの論題ろんだいについて話し合う。
 「賛成側」「反対側」の
 2つの立場に分かれて行う。
 ルールやくわり(役割・人数・進行・
 判定基準)にしたがって行う。
 話し合いは、筋道すじを立てて理由や
 根拠こんこを明らかにしながら進める。
 最後に判定する。

《ディベートの仕方の例》



《ディベートの進行表》

- 賛成側立論りつろん
- 反対側立論りつろん
- (作戦タイム)
- 反対側反論はんろん
- 賛成側反論はんろん
- (作戦タイム)
- 反対側結論けつろん
- 賛成側結論けつろん
- 判定

わたしたちの
ディベートの方法

わたしたちの
ディベートルール

ディベートの進行の形やルールは、
 いろいろあります。
 クラスに合ったルールや判定の基準など
 を考えてやってみましょう。

【役割分担】

- 司会者 …… (1)名
- タイムキーパー …… (1)名
- 「賛成側」 …… (6)名
- 「反対側」 …… (6)名
- しん判役 …… (3)名
- フロア …… (7)名

【進行表】

- 賛成側立論りつろん (2分)
- 反対側立論りつろん (2分)
- (作戦タイム) (1分)
- 賛成側質問 (2分)
- 反対側質問 (2分)
- 意見交流 (6分)
- (作戦タイム) (3分)
- 反対側結論けつろん (1分)
- 賛成側結論けつろん (1分)
- 判定 (3分)



ディベートの仕方を しっかり学ぼう
 相手をなっ得なさせられるような 技を身に付けよう

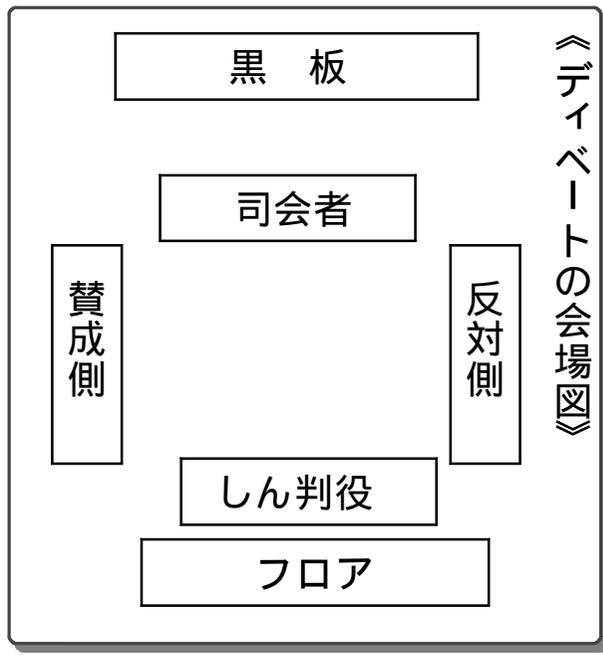
実践では、相手の意見をしっかりと聞き、相手の意見を取り入れながら意見交流をするというねらいから、「反論」でなく「質問」「意見交流」という言葉に変えた進行表を作成し使用した。

ディベートについて知ろう

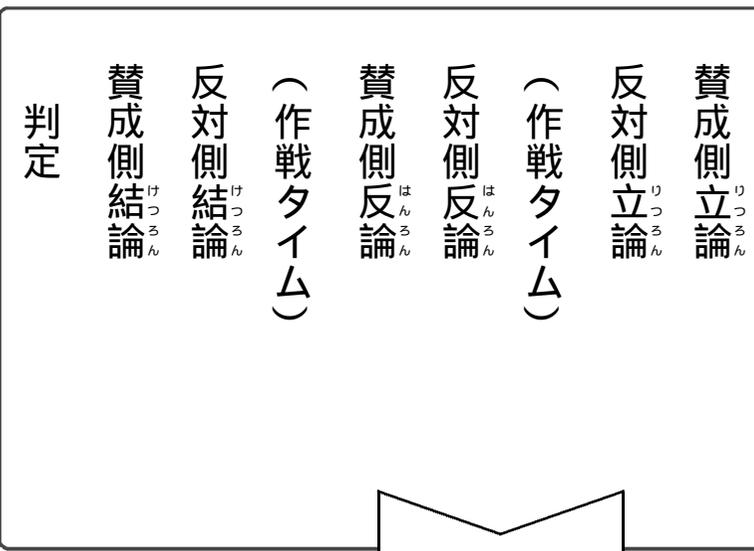
ディベートとは

一つの論題について話し合う。
 「賛成側」「反対側」の
 2つの立場に分かれて行う。
 ルール（役割・人数・進行・
 判定基準）にしたがって行う。
 話し合いは、筋道を立てて理由や
 根拠を明らかにしながら進める。
 最後に判定する。

《ディベートの仕方の一例》



《ディベートの進行表》



わたしたちの
ディベートの方法

ディベートの進行の形やルールは、
いろいろあります。
クラスに合ったルールや判定の基準など
を考えてやってみましょう。

わたしたちの
ディベートルール

【役割分担】

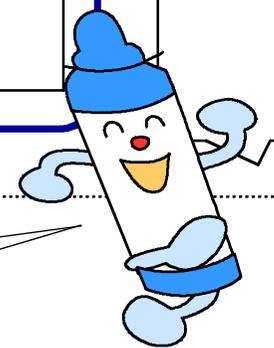
司会者 () 名
 タイムキーパー () 名
 「賛成側」 () 名
 「反対側」 () 名
 しん判役 () 名
 フロア () 名

【進行表】

賛成側立論 () 分
 反対側立論 () 分
 (作戦タイム) () 分
 賛成側反論 () 分
 反対側反論 () 分
 (作戦タイム) () 分
 賛成側結論 () 分
 反対側結論 () 分
 判定 () 分



ディベートの仕方を しっかり学ぼう
 相手をなっ得させられるような 技を身に付けよう



身近な生活について討論しよう
めあて 学習課題を達成するための学習計画を立てよう

【学習課題】ディベートにチャレンジ！
話し合い名人になろう

話し合い名人になるためには？

ディベートの仕方を知る

モデルディベート

学習の流れ

論題を決める

情報・資料を収集

立論を考える

準備する

練習する

ディベートをする

論題
身近なテーマ

ディベート

学習内容

論題「インスタント食品を積極的に取り入れるべきである」

情報の読み取り方

立論の立て方

質問のしかた

資料の集め方

グループで調べた短冊を話し合いながら整理しこのようにまとめるといいです。

2 / 12 時間目 指導略案 ワークシート 資料
活動のねらい

学習課題を達成するための学習計画を立て、今後の学習の見通しをもつことができるようにする。

1 学習課題について確認する。

2 学習課題達成のための学習計画を立てる。

【発問】「ディベートの話し合い名人」になるためには、どのような学習が必要でしょうか。

グループで必要な学習について話し合い、短冊に書く。

短冊に書いたものを黒板に出し合い、同じ学習内容をグループで整理する。

短冊を「学習の流れを表すもの（上段）」と「学習内容」（下段）に整理する。

学習する順序を話し合う。

資料を基にディベートをするのに必要な力を確認させる。

ディベートの進め方や述べ方を確認するために、教材文の筆者の考えを借りて代表者がディベートすることを「モデルディベート」と名付け、まずは「モデルディベート」を行う必要があることを知らせる。

「モデルディベート」をした後で、学習した話し合いの型や技を生かして「ディベート」をさせ、話し合いの力の定着を図るようにする。

児童の意見が不十分である場合は、教師側から必要な学習を提案する。

3 モデルディベートの論題を知り、教材文と出会う。

モデルディベートの論題「インスタント食品を積極的に取り入れるべきである」を提示し、自分の考えをもつための情報として教材文「インスタント食品とわた

たちの生活」を読むことを知らせる。

4 本時の学習を振り返り、自己評価する。

学習を振り返らせ、「学習計画を立てての感想」「これからの学習について思うこと」などについて書かせる。

5 次時の学習について見通しをもつ。

評価 ディベートに関心を持ち、学習課題を達成するための学習の方法や進め方について見通しをもっている。

次時は、教材文を読んで、情報を読み取ることが確認する。

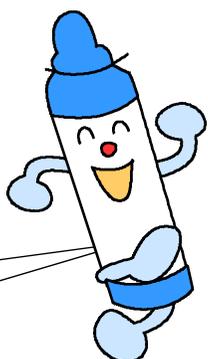
身近な生活について討論しよう

5年

月日() ()の学習を始めてから() ()時間目

学習のめあて

学習課題を達成するための学習計画を立てよう



みんなで話し合って決めた学習計画を書こう

月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日
学習の振り返り・まとめ	ディベート			モデルディベート					学習計画を立てる	学習課題を決める	学習すること	学習の振り返り・生かしたいこと

話し合い名人になるために
学習計画をもとに見通しをもって、計画的に進めよう

学習計画を立てた、今の気持ちを書こう！

Empty rounded rectangular box for writing feelings.

振り返り

よくできた できた もう少し

これから、どんな順番でどんな学習をしていくのか見通しをもつことができた。

学習計画を立てるために、進んで話し合いに参加することができた。

Two empty boxes for marking progress.

【学習課題】ディベートにチャレンジ！話し合い名人になろう
めあて
「インスタント食品とわたしたちの生活」
を読んで、筆者の考えを読み取る。

結論	本論		序論	段落
	~	~	~	内容
<p>筆者の主張</p> <p>インスタント食品の便利さを生かしながら、豊かな食生活をつくりあげていきたい</p>	<p>根きよ（問題点）</p> <p>家ことの味が失われてしまったこと</p> <p>料理が下手<small>へた</small>になってしまったこと</p> <p>栄養<small>えいじょう</small>がたよること</p>	<p>根きよ（長々）</p> <p>家庭で作る料理と変わらない味や香り</p> <p>長い間保存できること</p> <p>価格が安いこと</p>	<p>話題提示</p> <p>Q1 なぜインスタント食品は生まれたのか？</p> <p>答え 段落</p> <p>Q2 なぜかんげいされたのか？</p> <p>答え 段落</p>	

3 / 12 時間目 指導略案 ワークシート 教材文全文ワークシート
（著作権の関係で提供していません。）
活動のねらい
教材文を読み、筆者の考えとその根拠を読み取ることができるようにする。

1 めあてを確認し、教材文「インスタント食品と私たちの生活」を読む。

2 筆者の考えを読み取る。

【発問】筆者は、この説明文で読み手にどんなことを言いたいのでしょう。
筆者の主張が書かれている段落を見付けましょう。
筆者の意見が結論部分に書かれていることに気付かせる。

3 全文ワークシートで全体を見直し、教材文の構成をつかむ。

【発問】筆者は自分の考えをどのような構成で読み手に伝えようとしているのでしょうか。
序論（問い掛けによる話題提示）
本論（筆者の考えの根拠）
結論（筆者の考え）
全文を形式段落ごとに提示した全文ワークシートを活用すると、全体の構成がとらえやすい。

問い掛けの答えが形式段落 まで書かれている点や、のはじまりの接続語「ところで」に注目をさせ、話が展開していることに気付かせる。

4 筆者の主張の根拠を読み取る。

【発問】筆者がどのように考えるのはなぜでしょう。全文ワークシートで理由や根拠が書かれている部分を見付けてマーキングしましょう。
インスタント食品の良さ
・家庭で作る料理と変わらない味や香り
・長い間保存できること
・価格が安いこと
インスタント食品の問題点
・家ことの味が失われてしまったこと
・料理が下手へたになってしまったこと
・栄養えいじょうがたよること

評価 「インスタント食品とわたしたちの生活」を読み、構成をとらえながら、筆者の考えとその根拠を読み取っている。

5 ワークシートに整理し、学習したことを振り返る。

6 次時の学習の見通しをもつ。

次時は、筆者の述べ方の工夫について学習することを確認する。

学習のめあて

「インスタント食品とわたしたちの生活」を読んで
筆者の主張を読み取る

文章の構成をつかもう。筆者の主張はどこに書かれているかな。理由や根きよはどこに？

結論	本論	序論	形式 段落
筆者の主張	根きよ(問題点)	根きよ(良さ) 答えはどこに書いてあるかな? () (段落と) () (段落)	内容 話題提示

ふり返り

筆者の主張を読み取ることができた。

筆者の主張の理由や根きよを読み取ることができた。

よくできた

できた

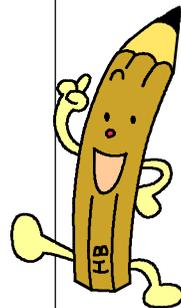
もう少し

【3つのまとまりに分けるヒント】

序論(話題提示)はどこまでかな? 問いかけとその答えが書いてあるところまでだよ。
結論は、筆者の主張がまとめて書いてあったね。その間が本論だ!

【本論はいくつ?】

本論は、大きく2つに分かれるよ。
接続語(つなぎ言葉)を参考にして2つのまとまりに分けてみよう。
まとまりごとに見出しを付けてみよう。
「結論の文章」や「キーワード(何度も出てくる言葉)」をヒントにして付けてみよう。



【学習課題】ディベートにチャレンジ！話し合い名人になろう

めあて

筆者の述べ方の工夫（技）を読み取る

インスタント食品とわたしたちの生活

一つ目は 「インスタント食品とわたしたちの生活」の段落の本文を提示します。

二つ目は 児童がワークシートで一人学びした後、ここに書き込みをしながら全体で確認するようにします。

三つ目は

《分かりやすくするための筆者の工夫》

主張 理由・根きよ まとめ

根きよは具体例をあげて

順序を表す言葉や接続語を使って

立論ろんの述べ方

4/12時間目 指導略案 ワークシート 教材全文ワークシート
活動のねらい 「インスタント食品と私たちの生活」を読み、筆者の述べ方の工夫について読み取り、立論の書き方を知ることができるようにする。
（著作権の関係で提供していません。）

1 教材文「インスタント食品と私たちの生活」を読む。

2 筆者の述べ方の工夫について考える。

【発問】筆者は、読み手を説得するために、どんな述べ方の工夫をしているでしょう。ワークシートの文中の「意見」「理由や根拠」「具体例」にマーキングする。マーキングしたことで気付いたことを話し合い、筆者の工夫についてまとめる。全文ワークシートを使って、「インスタント食品の良さ」について書かれた箇所についても同じような工夫が見られるか調べる。

（分かりやすくする筆者の工夫）

- ・ 「主張」「理由や根拠」「まとめ」の順に述べている
 - ・ 根拠には、具体例をあげて詳しく説明している
 - ・ 順序を表す言葉や接続語を使って述べている
- 述べ方を工夫することは、自分の考えを分かりやすくしたり、説得力を増したりすることを確認する。
- 筆者の工夫を生かして、立論を書くことが望ましいことを確認する。

3 「インスタント食品を積極的に取り入れるべきである」という論題について、教材文から得た情報を基に自分の立論を書く。

自分の立場を明らかにさせ、その根拠となる事例を教材文から取り出し、「主張」「理由や根拠」「まとめ」の順で書かせる。
児童の実態によって、理由や根拠の数はいくつでもよいが、二つ以上取り入れる児童には、「順序を表す言葉」「接続語」を使って表現できているかを確認させる。

評価 筆者の述べ方の工夫を読み取り、工夫を生かして自分の考えを立論に書いている。

4 本時の学習を振り返り、次時の学習について見通しをもつ。
次時は、他の情報を読み取り、自分の考えをさらに明らかにすることを確認する。

【学習課題】ディベートにチャレンジ！話し合い名人になろう
めあて

二つの資料を教材文と読み比べ、
論題について自分の考えをまとめよう

インスタント食品と
わたしたちの生活

意見文
アンケート調査

良さ

- ・家庭と変わらない
味や香りがある
- ・長い間**保存**できる
- ・価格が安い

良さ

- ・種類が豊富
- ・手軽に利用できる
- ・人気がある
- ・おいしい

問題点

- ・家庭ごとの味が
失われる
- ・料理が下手になって
しまう
- ・栄養がかたよる

問題点

- ・**保存料**などのてん
か物は体に悪い
- ・味覚障害の可能性
- ・家族の団らんが
台無し

いろいろな見方・考え方がある
同じ点でも「良さ」にもなり「問題点」にもなる

テーマについて自分の考えをまとめてみよう

自分の主張

理由や根拠よ

まとめ

5 / 12 時間目 指導略案 ワークシート 資料

活動のねらい

教材文と資料を読み比べ、いろいろな見方・考え方があことに気付くとともに、
論題に対する自分の考えを根拠を明らかにしながら書くことができるようにする。

1 資料 の意見文を読み、インスタント食品の良さや問題点について読み比べる。

- 「良さ」と「問題点」について、それぞれマーキングする。
- グループで意見を交流し、全体に広げる。
- 教材文に書かれた「良さ」と「問題点」について比べ、気付いたことを話し合う。
- いろいろな見方・考え方があことに気付かせる。
- 「保存料」に目を向けさせ、同じ視点でも「良さ」にも「問題点」にもなり得る
ことがあることに気付かせる。
- 「保存料について」「長く保存できる良さ」「
添加物としての問題点」

資料 のアンケート結果(「円グラフ」「ランキング」)から、どんなことが考え
えられるのか話し合わせる。

2 論題に対する自分の考えを書き、紹介しあう。

教材文や資料を基に、自分の考えを書かせる。
「主張」「理由や根拠」「まとめ」の順に立論として書かせる。

評価 教材文と資料を読み比べ、いろいろな見方・考えがあことに気付くと
ともに、論題に対する自分の考えを書いている。

3 次時の学習について確認する。

次時は、モデルディベートに向けて、計画・準備していくことを確認する。

* 本時は、論題についての様々なならえ方や資料の収集の仕方・情報の読み取り方
を前もって学習させ、その後のディベートの準備に生かせるようにと位置付けたも
のです。児童の実態や授業時数に合わせて省略することも可能です。

身近な生活について討論しよう

5年

月日() ()の学習を始めてから() ()時間目

学習のめあて

二つの資料を教材文と読み比べ、
論題について自分の考えをまとめよう



上の段には、教材文「インスタント食品とわたしたちの生活」に書かれているインスタント食品の「良さ」や「問題点」についてまとめてあります。資料のプリントの「資料1」「資料2」から読み取ることができるインスタント食品の「良さ」や「問題点」を下の段にまとめましょう。

良さ・便利さ

- 家庭と変わらない味と香りがある
- 長い間保存できる
- 価格が安くてすむ

問題点

- 家庭ごとの味が失われる
- 料理が下手になってしまう
- 栄養がかたよる

教科書の文と資料を読み比べて、自分の考えを書こう。

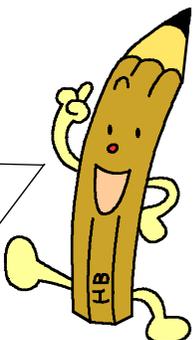
わたしは、インスタント食品を積極的に取り入れることに、
()賛成・()反対()です。
その理由は() ()つあります。

(だから・つまり)

【自分の考えを主張するポイント】

立場をはっきりさせること
賛成？ 反対？

- その理由をはっきりさせること
- ・ なぜ そう考えるのか
 - ・ くわしい説明
 - 具体的な事例・経験
 - 知っていること
 - データから分かること



ふり返り

資料と教科書の文とを比べて読み、自分の考えを深めたり広げたりすることができた。

よくできた

できた

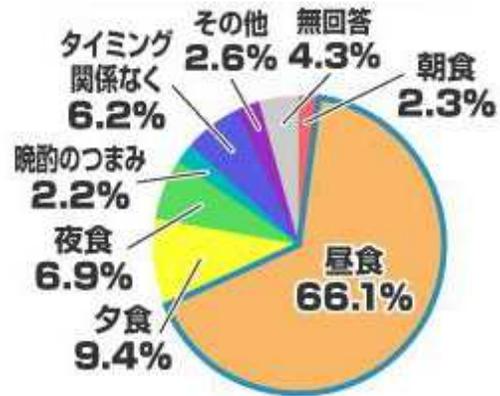
もう少し

資料2 「インターネットアンケート調査」

Q1
インスタント食品の
飲食ひん度は？



Q2
インスタント食品は
いつ食べる？



Q3
インスタント食品は
好きですか？



Q4
どんなインスタント食
品をよく食べる？

1 ラーメン	83.2%
2 うどん・ヌードル	43.9%
3 カレー	41.7%
4 みそしる	33.9%
5 やきそば	30.6%

アサヒビール(株)青山ハッピー研究所
毎週アンケート 2007年9月26日~10月2日調査

資料1 「意見文」

資料を読んで、「インスタント食品の良さ」「問題点」にマーキングしよう。

買い物に行くと、お店の中にずらっと並ぶインスタント食品を目にします。インスタント食品は、めん類・かんづめ・レトルト食品・粉末・フリーズドライ・冷とう食品など、種類も豊富です。このように身のまわりにあふれているインスタント食品ですが、心配なことはないのでしょうか。いくつか気になる点について考えてみましょう。

まず、保存料^{ほぞん}についてです。インスタント食品には、長く保存できるように保存料が使われています。保存料などをてんか物といいますが、このてんか物は体に良くないものがあります。保存できるように加工されるため、もともとの食材にふくまれる栄養が少なくなる場合もあるそうです。次に、味付けについてです。インスタント食品は味付けがこいものが多いです。そればかり食べていると、塩分を取りすぎて体をこわしたり、味覚が育たず味覚しよう害^{がい}を起こしたりする可能性があります。

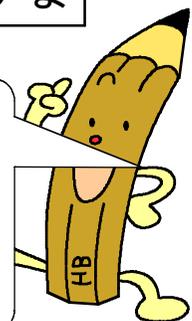
最後に、家庭の団らんについてです。「家庭の団らんは食にあり」と言われます。しかし、最近では「個食」といって、家族みんながそれぞれがインスタント食品を食べるといいうことが増えてきているそうです。家庭で一つの鍋(なべ)を囲こみ会話をすると、家族の大切な時間が失われていくのはとてもさびしいことです。

このように、インスタント食品には心配なこともあるようです。いつもインスタント食品ばかり食べるのではなく、上手な使い方を考え工夫して取り入れていきたいものです。

【資料を読もう】

「良さ」や「問題点」を見付け、「良さ」を表す文章には赤、「問題点」を表す文章には青でマーキングしよう。

教材文「インスタント食品とわたしたちの生活」の文章やこれらの資料から、テーマについて自分の考えをまとめよう。



【学習課題】ディベートにチャレンジ！話し合い名人になろう
 めあて **モデルディベートを計画し、準備しよう**

論題 インスタント食品を積極的に
 取り入れるべきである

分担表

役割	名前
司会者	
タイムキーパー	
賛成側	
反対側	
しん判役	
フロア	

モデルディベートの進行表

賛成側立論
 反対側立論
 (作戦タイム)
 賛成側質問
 反対側質問
 意見交流
 (作戦タイム)
 反対側結論
 賛成側結論
 判定

【討論者として準備すること】

- (1) 立場の確認
- (2) 立論の決定
 ・ 立論は2つ
 ・ 根きよと資料の準備
- (3) 作戦
 『作戦カード』
 『質問の予想 答え』
 『作戦カード』
 『相手の立論予想 質問・意見』
- (4) 発言の分担
- (5) 練習

6 / 12 時間目 指導略案

活動のねらい

立場を明確にしながらか、モデルディベートの計画・準備をする。

ワークシート 立論カード 作戦カード
 司会者の手引き 時間記録用紙 判定カード

1 役割分担を確認し、準備の手順を確認する。

クラスの人数が多いときは、時間の都合上、代表者によるモデルディベートを行うが、可能であればモデルディベートを何度か行い、すべての児童に根拠を基に意見をいう体験をさせたい。この場合は、上の分担表を数枚準備する。
 代表者によるモデルディベートをする場合も、すべての児童に「賛成側」「反対側」のどちらかの立場に立たせる。そしていくつかのグループを作り、準備させる。「司会者」「タイムキーパー」を決める。
 役割は、前もって分担しておく時間を割かなくてよい。

2 手順に従って、賛成側・反対側のそれぞれのグループで準備する。

論題に対して賛成・反対両方の考えを紹介し合う。
 両方の立場に立つて立論を考えさせることで、相手側の立論を予想できたり、質問されることが予想できたりする。
 自分たちの立場として、どの立論が説得力があるかを話し合い、二つ決める。
 立論の理由や根拠を話し合い、立論カードにまとめる。

3 作戦を立てる。

相手側から質問されることを予想し、その答えを考えて書く(作戦カード)
 相手側の立論を予想し、質問や指摘したい点について考え書く(作戦カード)
 提示したい資料があれば、準備する。
 「司会者」「タイムキーパー」に、「司会の手引き」「時間記録用紙」を渡し、話し合いの打ち合わせを行う。(授業時間外でもよい。)
 判定の基準・方法について知らせておく。

4 デイベートをイメージしながら発言の練習をする。

デイベートの進行表を確認させながらイメージさせ、発言の練習をさせる。
 評価 立場を明確にしながらか、グループで協力し、立論や作戦を立てている。

5 次時の学習について確認する。

次時は、モデルディベートを行うことを確認する。
 * 学級の実態に合わせて、準備の時間を一時間増やしたり、課外の時間に進めさせたりする。また、それぞれの準備の進み具合を確認し、必要に応じて課外で支援する。

結論 ←	意見交流 ←	質問・応答 ←	立論
・多くの人に生まれ、利用されている。 ・手軽なのでいそがしい時には積極的に利用したい。	・たしかに 健康は大事 でも忙しい時は助かる	・好みに合わせて選べる。 味付け 量	(理由1) おいしくて人気がある ・アンケート調査 アンケート 円 グラフ (理由2) 価格が 安い ・カレーのレトルト五百円以内
・栄養バランスを考えた手作り料理をなるべく取りたい。 ・インスタント食品の取りすぎは体に悪い。	・ 取りすぎはこわい ・新せんな材料は栄養がある	・手作りなら一度に大量に作れるから 安い 。 ・体をこわすと病院代がかかる(かえって高くつく)	(理由1) 料理が下手になる ・料理の仕方を覚えたい (理由2) 栄養がかたより体をこわす ・こい味付け 味覚障害 ・炭水化物 太る ・てんか物 のうに悪い

【学習課題】ディベートにチャレンジ！話し合い名人になろう
 めあて
 モデルディベートを通して
 よりよい話し合いの仕方(技)を見つけよう
 論題
 インスタント食品を積極的に取り入れるべきである

7・8 / 12時間目 指導略案

- ワークシート
- ディベートの話型(例)
- 進行表
- 立論カード
- 作戦カード
- 司会者の手引き
- 時間記録用紙
- 判定カード

活動のねらい
 モデルディベートを通して、よりよい話し合いの仕方について知ることができるようにする。

1 めあてを確認する。

友達の話合いの様子から、よさや改善点を見付けられるようにする。
 ワークシート(フロアメモ)には、進行に沿って友達の話合いの述べ方や発言内容の「良い点」「アドバイス」を具体的にメモするよう説明する。

2 役割を確認し、モデルディベートを行う。

「司会者」「タイムキーパー」「討論者(賛成側)(反対側)」を確認する。
 ディベートの進行表に沿って、司会者に進めさせるが、一つ一つ解説を加えながら丁寧に進め方を押さえ、理解させる。

3 モデルディベートを終えて、よかったことや改善点について話し合わせる。

身に付けたい話し合いの技を視点に、どういう言い方が、分かりやすいか、説得力があるかについて話し合わせる。
 「ディベートの話型(例)」を使って、話し方のモデルを知らせる。

《身に付けたい話し合いの技》

- ・立論の述べ方
- ・根拠をはっきり
- ・質問の仕方
- ・意図をもって
- ・質問への答え方
- ・相手の考えを受けて
- ・資料の出し方
- ・考えを強調するため

4 本時の学習を振り返り、次時の学習について見通しをもつ。

次時は、「小学生は午後9時以降にテレビを見ない方がよい」「宿題はなくすべきである」の二つの論題のディベートに向けて、準備していくことを確認する。また、いろいろな視点から考えを整理しておくように伝える。

* 実態に応じて、モデルディベートの回数や時間・モデルディベート後の話し合いの時間を工夫するとよい。

身近な生活について討論しよう

5年 月 日 () () この学習を始めてから () () 時間目

学習のめあて

モデルディベートを通して
よりよい話し合いの仕方(技)を見つけよう

【論題】

友だちの話し合いの仕方の「よいところ」「や」「アドバイス」をメモしましょう。

賛成側

反対側

【立論】

Vertical writing area for the '立論' (Opening Statement) stage.

Vertical writing area for the '立論' (Opening Statement) stage.

【質問】

Vertical writing area for the '質問' (Question) stage.

Vertical writing area for the '質問' (Question) stage.

【意見交流】

Vertical writing area for the '意見交流' (Exchange of Opinions) stage.

Vertical writing area for the '意見交流' (Exchange of Opinions) stage.

【結論】

Vertical writing area for the '結論' (Conclusion) stage.

Vertical writing area for the '結論' (Conclusion) stage.

ふり返り

よくできた

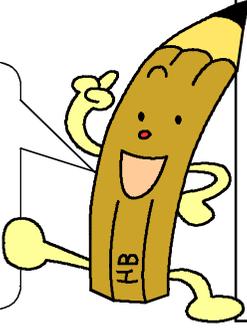
できた

もう少し

モデルディベートの中で、友達のよい話し合いの仕方を見つけることができた。
よりよい話し合いの仕方についてわかった。



判定基準
自分の意見を言う時に、理由や根拠をはっきり述べているか。
相手の意見を受け入れながら意見を言っているか。
結論は、意見交流を受けた内容になっているか。



【書き方】
だれが どんないい話し方をしたのか
を具体的にメモしておこう。
(注) 全文を書き取らないで、
キーワードを書こう。

【学習課題】ディベートにチャレンジ！話し合い名人になろう

めあて

身近な論題ろんだいのディベートを計画し、準備しよう

論題1

「小学生は午後9時以降にテレビを見ない方がよい」

論題2

「宿題はなくすべきである」

役割	名前	役割	名前
司会者		司会者	
タイムキーパー		タイムキーパー	
賛成側		賛成側	
反対側		反対側	
しん判役		しん判役	
フロア		フロア	

準備の手順

論題について「賛成」「反対」意見を考える

(ワークシート)

情報や資料を集める

それぞれの立場で話し合い、立論を決定する

「根きよを説明する文章」や「資料」の作成

(立論カード・資料の集め方)

作戦を立てる(作戦カード)

担当を決め練習する

9・10 / 12 時間目 指導略案

ワークシート 立論カード 作戦カード
ディベートの情報収集の仕方

活動のねらい

身近な論題でディベートするために、計画や準備を行うことができる。

1 論題と役割を確認する。

役割分担は、課外の時間を使って前もって行い、ここでは確認のみを行う。

2 準備の手順に従って、グループで準備し、練習する。

テーマについて、「賛成」「反対」どちらの立場からも意見と理由や根拠を考え、一人一人ワークシートに書く。

グループになって意見を交流し、情報や資料を集める。

グループになって意見を交流し、立論をしぼる。

「根拠を説明する立論の文章」や「資料」を作成する。

作戦カードで作戦を立てる。

担当を決め、練習をする。

準備の手順を示し確認させた後、それぞれのグループで準備させる。

情報の集め方についての資料(ディベートの情報収集の仕方)を配付し、簡単に説明する。

グループのリーダーを決め、リーダーを中心に話し合いをさせる。

準備のでき具合を確認して回り、必要に応じて立論の決め方や情報の集め方などについてアドバイスする。

評価 身近な論題でディベートするために、立場を明確にしながら計画や準備を行っている。

3 本時の学習を振り返り、次時の学習について見通しをもつ。

次時は、学習した話し合いの技を使って、身近なテーマのディベートにチャレンジしていくことを確認する。

* 計画・準備の時間として二時間で実施をしているが、学級の実態に応じて時間の調整を行う。

身近な生活について討論しよう

月 日 () () の学習を始めてから () () 時間目

5年

学習のめあて

身近な論題のディベートを計画し、準備しよう

役割分担を決めて、準備の手順を確認しよう。

【論題】

役割	名前
司会者(一人)	
タイムキーパー(一人)	
賛成側(人)	
反対側(人)	
しん判役(人)	
フロア(人)	

論題について「賛成側」と「反対側」の両方の立場で意見を考え、立論をしぼろう。

賛成意見

反対意見

理由	根きよ	理由	根きよ
理由	根きよ	理由	根きよ
理由	根きよ	理由	根きよ

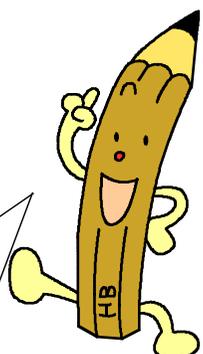
ふり返り

よくできた できた もついで

ディベートの計画を立て、論題に対する自分の考えをまとめることができた。



チームでたくさんの考えを出し合おう。
どの意見が説とく力があるのか考えて、2つにしぼろう。
資料はどんなものを準備するか考えておこう。



きみのディベートの論題と
役割が決まったら、
上の分担表に書きこもう。

<p>結論</p>	<p>意見交流 質問・応答</p>	<p>立論</p>	<p>【学習課題】ディベートにチャレンジ！話し合い名人になろう めあて 話し合い名人の技を使ってディベートをしよう</p>
<p>自分の苦手なところを中心に自分のペースで学習でき 自学が自分のためになる。 宿題はなくしてもいい。</p>	<p>自分で計画的に勉強する力がつく。</p> <p>宿題をいやだと思っている小学生が多い。 友だちと遊ぶ時間が減る</p> <p>自学もしよう来役立つ</p>	<p>(理由1) 友だちと遊ぶ時間が増える ・いろいろな遊びができる ・友情が深まる</p> <p>(理由2) 自学で自分に合った学習ができる ・苦手なところ ・やらされるより身に付く</p>	<p>賛成側</p>
<p>計画的に学習するのは大変。 先生が出してくれる宿題の方が力がつく。宿題はあった方がいい。</p>	<p>何もしないとしよう来こまる</p> <p>自分で計画的に勉強するのはむずかしい。宿題より大変。</p> <p>宿題はいやだと思つときもあるし、友だちとも遊びたいけど</p>	<p>(理由1) その日の復習がしっかりできる ・先生が考えた宿題は効果的</p> <p>(理由2) しよう来役に立つ ・毎日続けると力がつく 「継続は力なり」 アンケート調査結果</p>	<p>反対側</p>

論題 宿題はなくすべきである

根きよをはつきりさせながら相手の意見を受けて

11・12 / 12 時間目 指導略案

立論カード 作戦カード 司会の手引き
時間記録用紙 判定カード フロアメモ
ディベートの話型表 ワークシート

活動のねらい

モデルディベートを通して学習した、よりよい話し合いの仕方を生かして、身近な論題でディベートすることができるようにする。

1 めあてを確認する。

立場と論題を確認する。
これまでの学習を振り返り、話し合い名人の技を確認させ意識付けする。
司会者・タイムキーパー・審判役には、事前に役割の確認をしておく。
フロアの児童には、フロアメモの記入の仕方を説明し、話し合い名人の技を見付け、記入するよう指示をする。

2 「論題一 小学生は午後九時以降にテレビを見ない方がよい」についてディベートする。

審判役には判定カード、フロアにはフロアメモを持たせ、友達の話し合いの仕方のよかつたところをメモさせ、判定や感想交流に生かせるようにする。
話し合いの内容が論点からそれた場合は、司会者を支援したり、方向修正させたりする。
意見交流で意見が滞ったときには、それぞれのグループに支援に入る。

3 「論題二 宿題はなくすべきである」についてディベートする。

論題一と同様に、適宜、支援を行う。

評価 根拠を明らかにしながら意見を述べたり、相手の考えを受けながら発言したりしている。

4 デイベートを振り返り、学習課題が達成できたか、意見を交流する。

ディベートを終えての感想や、学習課題「ディベートにチャレンジ！話し合い名人になろう」が達成できたかについて意見を交流する。

5 単元を振り返り、「学習で身に付いた力」や「学習の感想」をまとめ、交流する。

ワークシートに沿って、学んだことや身に付いた力について確認させ、達成感を味わわせる。
* 一つのディベートをするのにかかる時間は、学級で決めた進行表によって変わってくる。二つのディベートにかかる時間を見通し、残りの時間で単元の振り返りができるように計画しておくとうい。

身近な生活について討論しよう

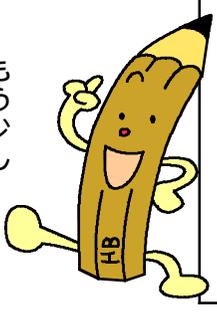
5 年 月 日 () () () の学習を始めてから () () 時間目

学習のめあて

ディベートの学習をふり返ろう

ディベートについて

よくできた できた もう少し



理由や根きよを明らかにしながら、ディベートをすることができた。

相手の意見を受け入れながら、ディベートすることができた。

友達の話し方の名人技を見つけることができた。

学習課題「ディベートにチャレンジ！話し合い名人になろう」が達成できた。

話し合いの時に大切だと思うことを書きましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--

『身近な生活について討論しよう』の学習をふり返って、「自分ががんばったこと」「や学んだこと」「できるようになったこと」を書きましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

先生から

